



## カボチャ栽培における病害虫の防除対策



県内における半促成カボチャ栽培では、早いものは5月中～下旬頃より順次に出荷されていきます。

この作型では、被覆を開放する頃より、うどんこ病やべと病、疫病などの病害や、アブラムシ類、コナジラミ類、ウリハムシなど害虫類の発生が増加してきます。これら病害虫の発生には一定の傾向があり、降雨日が多く多湿条件が続けば疫病やべと病などが多くなり、一方で晴天が続くとうどんこ病やアブラムシ類、コナジラミ類などが多く発生する傾向があります。

多発生してからでは薬剤防除の効果が劣りますので、発病初期からの防除が重要です。

特に疫病では果実に発生すると大きな減収につながりますので、予防散布を行う必要があります。

良質なカボチャの安定生産を図るため、適正な栽培管理とともに、病害虫の早期発見、早期防除に努めて下さい。

### 【防除対策のポイント】

- 適切な整枝に努め、下葉や葉の混み合っているところの葉裏などを丁寧に観察して、病害虫の早期発見に努めます。
- 被覆を開放したら、予防散布を検討しましょう。また、病害虫の発生を確認したら、必要に応じて的確な防除を行います。  
薬剤散布は十分量の薬液で、葉裏や下葉、株元にもよくかかるように行うことが重要です。なお、散布の際は収穫前日数や総使用回数に注意して、薬剤を選択してください。
- 降雨が続くようなときは、圃場の排水を促す溝などを掘り、浸冠水や停滞水を回避して下さい。
- 果実は直接土に接しないように、着果後20日目頃から順次に敷物などを行います。
- 薬剤耐性菌や抵抗性害虫の発生を抑制するため、同一分類（コード）剤の連続散布は避けて下さい。



表1 カボチャ うどんこ病の主な防除薬剤

(令和5年4月14日現在)

薬剤名	希釈倍数	使用時期 / 使用回数	分類 ※1
モレスタン水和剤	2,000~4,000倍	収穫3日前まで / 3回以内	M10
ベルコート水和剤	1,000~2,000倍	収穫7日前まで / 4回以内	M7
フルピカフロアブル	2,000~3,000倍	収穫前日まで / 4回以内	9
ダコニール1000 ※2	1,000倍	収穫7日前まで / 3回以内	M5
トリフミン水和剤	3,000~5,000倍	収穫前日まで / 5回以内	3
シグナムWDG	1,500~2,000倍	収穫前日まで / 3回以内	7と11
イオウフロアブル	500倍	— / —	M2

※1：各表の分類欄は、FRACまたはIRACコードを記載。(コードが2つは混合剤)。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避ける。

※2：いずれも有効成分TPNが含まれているので、総使用回数(3回)を超えないように使用する。【表2、表3も同じ】

表2 カボチャ 疫病、べと病の主な防除薬剤

(令和5年4月14日現在)

対象病害	対象病害	薬剤名	希釈倍数	使用時期 / 使用回数	分類 ※1
○	○	フォリオゴールド ※2	1,000倍	収穫7日前まで / 3回以内	4とM5
○	○	ランマンフロアブル	2,000倍	収穫前日まで / 3回以内	21
○	○	プロポーズ顆粒水和剤 ※2	1,000倍	収穫7日前まで / 3回以内	40とM5
○	○	アリエッティ水和剤	400~800倍	収穫前日まで / 3回以内	P7
○	○	ペンコゼブ(ジマンダイセン)水和剤	600倍	収穫21日前まで / 2回以内	M3
	○	ダコニール1000 ※2	1,000倍	収穫7日前まで / 3回以内	M5

表3 カボチャ アブラムシ類、コナジラミ類、ウリハムシの主な防除薬剤

(令和5年4月14日現在)

対象害虫			薬剤名	希釈倍数	使用時期 / 使用回数	分類 ※1
アブラムシ類	コナジラミ類	ウリハムシ				
○		○	モスピラン顆粒水溶剤	2,000~4,000倍	収穫前日まで / 2回以内	4A
○	○		モベントフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで / 3回以内	23
○	○		コルト顆粒水和剤	4,000倍	収穫前日まで / 3回以内	9B
	○	○	トレボン乳剤	1,000倍	収穫前日まで / 3回以内	3A
	○		サンマイトフロアブル	1,000~1,500倍	収穫3日前まで / 2回以内	21A

■ 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

■ 営農 News は JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。